

＜スタッフ紹介＞

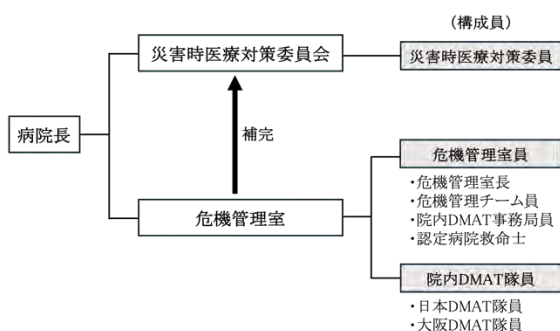
役 職	スタッフ名
室長兼救命診療科部長	成田 麻衣子
主査兼救命ICU副看護師長兼感染症センター	弥園 英治
主査兼医療マネジメント課診療情報管理係長	田中 貴士
主査兼薬剤部門	中川 貴弘
主査兼総務課総務係	高川 一馬
主 査	中前 光弘
救命初療/手術室	西村 直子
認定病院救急救命士	樫元 允良
認定病院救急救命士	東 明日香
他スタッフ	1名

＜特色と概要＞

当院は、地域の中核病院として、地震や津波、台風、航空機事故、テロ(CBRNE等)、サイバー攻撃などあらゆる危機(オールハザード)に対して、予防的な対応も含め、迅速かつ的確な対応をとり、院内外の機関と連携しながら業務(=診療)継続を行う必要がある。そのため、病院だけでなく地域全体の減災対策を行う拠点として、危機管理室が設置された。

2024年度からは、院内災害対策の組織体制(図1)を明確にし、「院内DMAT事務局」を設置し、院内DMAT隊員を組織化することで、院内の災害対応の強化を図っている。

2025年度からは、病院救急救命士2名が、「認定病院救命士」に任命されたことにより、危機管理室に新たに加わり、院内外での多職種連携の強化を図っている。



(図1)院内災害対策の組織図

1. 院内外のBCPおよび各種マニュアルの整備

当院は前述したように、どのような危機が発生しても、地域の拠点病院として、業務(=診療)継続を行う必要がある。そのために、全ての危機に対応できるように既存の「事業継続計画(BCP)」をオールハザード対応へ改訂し、同時に、対応人員の育成と管理、マニュアルなどの整備、院内外における災害教育・訓練企画・院内周知などを行っている。

2. 他機関・他施設との連携体制の構築

当院は、危機発生時に迅速かつ的確な応急対応が実施できるよう、平素から行政や関連機関等と連携を密にし、協

力体制の強化に努める必要がある。そのため、危機管理室は、泉佐野保健所管内健康危機管理関係機関連絡会議に参画し、泉州二次医療圏における危機事態に対しての対応策や連絡体制の検討を行い、有事の際には迅速な情報共有を行えるように多機関・多施設連携の強化を図っている。また、関西国際空港緊急計画やKIX-JCMG (Joint Crisis Management Group: 関西国際空港総合対策本部) への参画や、消防・警察・海上保安庁などへの講演会の実施や合同訓練の企画立案を通して、有事の際の医療連携体制強化を図っている。

3. (有事の際の)院内対策本部のサポート

当院は、危機の規模や被害等が拡大し病院全体の対応が必要な場合に、対策本部等の組織体制に迅速に移行するなど、状況に応じた対応を行う必要がある。危機管理室は、そのような際に、院内外の情報収集・連絡体制の確保などの院内対策本部のサポートや代表窓口を担い、加えて有事の際の対応記録の保管を行っている。この対応記録から各々の活動評価を行いマニュアル・BCPなどの修正を行い次の有事に備えることとしている。

＜実績＞

2025年度は、異常気象に備え「気象注意報・警報発令時対応マニュアル」を完成し院内周知を行った。

また、医療情報システム部門事業継続計画(IT-BCP)に基づき、「システム障害時対策本部マニュアル」も作成し院内周知を行った上で、サイバー攻撃を受けた設定で本部立ち上げのシナリオ訓練を企画し、2026年2月に実施した。

さらに、前年度に行った机上訓練をもとに、多機関合同爆発事案対応訓練(MIZUNASU訓練)の実働訓練を泉州南広域消防本部とともに企画・運営し、見学・視察者を合わせ院内外約280名が参加する訓練が実現できた。

院内DMAT事務局では、昨年度同様、院内DMAT隊員の月1回の活動日を設け、訓練の報告会やDMAT勉強会も実施した。これにより、DMAT隊員が院内の災害対策により積極的に関わることができ、院内災害対応能力の向上に寄与するとともに、DMAT隊員自身の知識向上や技能維持にも繋げることができる。そして、2025年度は、この活動の成果として、局地災害発生時のDMAT出動フローの改訂と初動アクションカードが完成し、局地災害発生時DMAT要請から20分(訓練実績)で出動可能な体制を構築できた。

また、実働として、4月には泉大津火災出動、7月には和

歌山沖洋上救急事案の対応を行い、それぞれの振り返りを多機関合同で行うことで、地域・他機関との連携の強化を図ることができた。

表1には、危機管理室(院内DMAT隊員含む)が参加・対応した訓練や研修、実働事案を示す。

表1 2025年度に参加した主な訓練や研修、実働事案

4月19日	実働	泉大津火災事案
5月22日	訓練	関西国際空港航空機事故情報伝達訓練
5月31日		第4回いずみさのこども未来応援フェスタ
6月7日	研修	大阪府ロジスティックス研修会①
7月15日	実働	和歌山沖洋上救急事案
7月23日		消防との合同勉強会(泉大津火災対応振り返り)
7月30日	実働	カムチャッカ半島地震による津波発生対応・本部設置
8月21日	訓練	関西国際空港航空機事故医療救護活動部分訓練
8月28日	訓練	大阪府警察関連人質立てこもり事件捜査総合訓練
9月5,6日	訓練	政府訓練大規模地震時医療活動訓練
9月12日	実働	関西国際空港ダイバート・本部立ち上げ対応
9月17日	研修	災害時病院対応・病院籠城シミュレーション研修
9月20,21日	訓練	大規模地震時医療活動訓練
10月2日	訓練	関西国際空港航空機海上事故対策図上・検証訓練
10月4日	研修	大阪府ロジスティックス研修②
11月13日	訓練	関西国際空港航空機事故消火救難総合訓練
11月21,22日	訓練	近畿地方DMATブロック訓練
12月10日	訓練	多機関合同爆発事案対応実働訓練(MIZUNASU訓練)
12月23日	訓練	海上保安庁合同訓練/洋上救急事案振り返り
1月14日	訓練	大阪府地震・津波災害対策訓練
1月16日	訓練	院内防火・防災訓練
2月18日	訓練	院内医療情報システム障害時対応本部設置訓練

＜今年度の成果と来年度への抱負＞

2025年度は、オールハザードアプローチの考え方に基き、危機管理体制および事業継続体制の強化を推進した。各種マニュアルの整備、サイバー攻撃を想定した訓練や多機関合同実働訓練の実施、DMAT体制の充実および実災害対応を通じて、院内外における災害対応力の向上と関係機関との連携強化に取り組んだ。

2026年度は、職員に対する災害教育および実践的訓練をさらに充実させるとともに、地域の災害協力病院を対象とした研修を実施し、地域全体の災害対応能力と医療継続体制の強化に取り組む予定である。具体的には、オールハザード編のBCPを完成させたいと、地域全体の医療継続計画の策定にむけて始動する。また、DMAT運用マニュアルの改定を行い、DMATだけではなく、災害支援ナースやJRAT(Japan Disaster Rehabilitation Assistance Team)などの他の災害派遣チームを含めた運用マニュアルを完成させ、災害対応要員の育成を図る。

そして、これまでと同様、危機発生時でも地域住民の皆様様に医療の提供が継続できるよう、より一層の多機関連携の強化と地域全体の減災対策に貢献できるように努めている。



泉大津火災事案(実働)



多機関合同爆発事案対応実働訓練(MIZUNASU 訓練)



院内医療情報システム障害時対応本部設置訓練